

（資料紹介）友人たちが語る原三溪

発表者：久保会員

『原三溪翁伝』以外の資料で原三溪のことを読んでみようということで、三溪園を訪れたアメリカ人チャールズ・ラング・フリーア、タゴール来日時に通訳を務めた矢代幸雄、三溪と交友のあった鈴木達治らが残した文章が紹介されました。三溪が盛んに美術品を蒐集していた大正の頃に、三溪園で客人がどのようにもてなされていたかを示す具体的なエピソードが多数含まれています。今回は資料を音読して紹介する形式でしたが、特に矢代幸雄の著作は声に出して読んでみると独特のリズムがあることから、美術館8階の眺めの良さも相俟って好評でした。



原三溪の漢詩を読み解く「芳野懐古」

発表者：廣島会員

芳野懐古

天皇按劔事終空 遺恨當年競北風
春到行宮花有淚 滿山暮色雨聲中

三溪の煙霞癖を想うシリーズの3回目は、『三溪集古人迂第二集』所収の七言絶句です。吉野に南朝を開いた後醍醐天皇を偲び桜が咲き雨の降る景色が詠まれています。三溪園には、後醍醐天皇を助けたことで知られる楠正成の像を安置した楠公社（現在の三溪園天満宮）がありました。

三溪の煙霞癖は、単に旅先の物見遊山ではなく、自然の美しさや雄大さと併せて歴史の栄枯盛衰を偲ぶ要素が含まれています。歴史を実感すると自然風景も深みが増すのかもしれませんが。

